

選者 川口孤舟

句会出席 柿崎忠彦 後藤とみ子 在間千恵 佐藤ただしげ 豊田ゆたか 古田昇 星田啓子

山崎亜也

投句・選句 川口孤舟 久米五郎太 熊谷くにお 小早健介 田島正己 土谷堂哉 西澤國護

福島正明 古川百合子 山内天牛 渡邊盛雄

選句のみ 梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章 山田けい子

山本三恵



【互選句】 ◎が付されている句は孤舟選者の選 ○は選句した会員による天(特選)

十二点

分身となりたる杖や山笑ふ 孤舟 (く・○健・と・孝・清・堂・ゆ・隆・允・
正・け・盛)

十一点

◎流水や地球の軋む音させて 昇 (弧・忠・健・五・と・千・龍・清・
正・天・○盛)

八点

長閑なり和尚の経に我も和し 堂哉 (千・孝・龍・國・隆・天・亜・盛)

七点

◎啓蟄の土を蹴り上げ逆上がり とみ子 (弧・く・五・清・堂・百・け)

六点

◎啓蟄や土を押し出す命かな 忠彦 (弧・清・己・堂・百・啓)
茶柱でついもうひとつ桜餅 國護 (堂・隆・允・百・亜・天)

五点

孕猫わがもの顔に法善寺 とみ子 (○くす・允・昇・啓・亜)
筍の歯応え嬉し夕餉かな ただしげ (忠・千・ゆ・正・天)
寒もどり人も鳥も無口なる 百合子 (く・と・孝・己・國)
◎火の散華病を祓ふお水取 盛雄 (弧・健・千・孝・正)

四点

今生の帆を全開に春疾風 孤舟 (○と・た・正・昇)
雲流れ外人墓地の黄水仙 全 (く・健・正・天)
この先の筋書き知らず蜥蜴出づ 全 (くす・五・○昇・亜)
◎白魚の目玉こぼれて四手網 くに お (弧・啓・け・三)
◎うたた寝に心和らぐ春障子 正己 (弧・龍・昇・盛)

◎吃音の初音焦らず焦らずに
病院のお膳を飾る雛祭

昇 天牛

(弧・くす・千・百)
(く・健・清・隆)

三点

硝子戸を震わすアリア春うらら
天然のシャンデリアかな白木蓮
信者らは口伝の祈り島に春
のどけしや黄味色の濃きオムレット
菜の花を分けてヂーゼル土佐路かな
◎うぐいすや逆さになりて蜜を吸う
ミラノ沸く空中戦の春の舞
春の陽も壽ぐ上梓人集ふ

五郎太 健介 とみ子 千恵 堂哉 百合子 昇 亜也

(己・堂・け)
(忠・清・昇)
(くす・五・け)
(と・ゆ・昇)
(と・た・允)
(弧・ゆ・允)
(忠・た・国)
(五・百・三)

二点

春の宵焼香台の愛妻句
象徴へ遠き春かな愛子さま

加賀見山再石藤

岩藤は桜華の上をふわふわと
◎船頭の咽の清けし柳かな
白梅の蕾つぶらに風温み
春炬燵己の歳を知らされて
松明の狂喜乱舞やお水取り
初鳴きや地蔵やぐらの空たかし
たしろぎて裳裾抑へり春颯(はるはやて)
池の面に撥ねて春陽の樹にあそぶ
雛祭り美しき讃岐の和三盆
山茱萸や満開とても誇らざる
腫瘍切り早や二十年の帰り花
吾を待つ遠き吉野の山桜

ただしげ 堂哉 國護 正明 昇 百合子 啓子 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

(三・盛)
(弧・く)
(孝・〇己)
(弧・隆)
(け・天)
(己・三)
(た・亜)
(孝・三)
(忠・五)
(百・啓)
(くす・〇隆)
(健・た)

一点

春憂う中東戦争拡大す
春風に散りゆく花の行方かな
雨粒が木の芽はじけ光りけり
芽柳は風の依代水の音
木の芽吹く金銀山の夢の跡
◎桃の花社交的なるわが娘
春日差池水の苑のさんざめき
◎逃水にシエアサイクルの浮かびをり
お祝いを二十歳の春や銀座にて
白梅の白が映えるや青い空
深更のミモザの家を目印に

忠彦 全 全 孤舟 全 五郎太 全 とみ子 全 全 昇

(龍)
(た)
(國)
(三)
(己)
(弧)
(啓)
(弧)
(垂)
(ゆ)
(啓)

春の雪庭木に咲けり雪の花
春雨や暮なんとす夕焼け空
老年や遠く実れる梅の花
梅赤く孫の祝いに庭に苗
遊歩道ベンチでうつら春陽浴び
桜咲く笑う門には福来る
蜜吸われ杏の花の散り敷ける
卒業子銘仙以下と昔云ひ

ゆたか
全 全 全 全 全
國護 全 國 忠 千 啓子 亜也
(龍) (允) (國) (ゆ) (忠) (千) (國) (啓)

【句 評・短 評】

十二点

分身となりたる杖や山笑ふ

孤舟

健介さん・・・身につまされます。外出が増える季節になってくれば、なおさらに。
とみ子さん・・・杖が分身のようとは、杖の扱いがお見事なのでしようね。
堂哉さん・・・分身と共に歩き、自然を楽しみましょう！
隆さん・・・持病の腰痛が起きると部屋の中でも杖に頼る。縦横無尽まさに分身。
允章さん・・・芽吹き始めた春の山を分身の如き杖について登る。

十一点

流水や地球の軋む音させて

昇

孤舟選者・・・流水がぶつかり合う轟音は、地球が軋んでいる音かも知れない。
五郎太さん・・・網走では、^{ハル}時点の目視で海の二割がまだ流水とか。
とみ子さん・・・雄大な自然の営みに、触れるようです。
千恵さん・・・海からではなく地球から軋む音とは大自然を感じますね。
天牛さん・・・地球の音とはうまいもんですね。

八点

長閑なり和尚の経に我も和し

堂哉

千恵さん・・・このお彼岸も檀家が集まり住職と一緒に「讃仏偈」を唱和しました。住職も八七歳で近頃お経が短くなりましたが唱えた後は気分もすっきりしますね。
孝岳さん・・・昨今の騒がしい世の中にいて、この句のような明るく穏やかで時間がゆったり流れているような春を思わせる和尚の読経の声に、自分も自然と声を合わせてしまう。癒されます。

隆さん・・・「きみようむりようじゅによらいー なーむーふーかーしーぎこう」云々
長閑にくらすことが一番の薬か。「長閑なり和尚の経に連れられて」でも。
天牛さん・・・お寺の本堂そのものが何ともいえぬ静寂があり、和尚さんと一体になれますね。
亜也さん・・・僧侶が出てくる句はわざとらしくなりがちも、この和尚は自然。
盛雄さん・・・小生の菩提寺の若和尚は美声で女性信者に人気があった。

七点

啓蟄の土を蹴り上げ逆上がり

とみ子

孤舟選者・・・虫たちが勢いよく土から出て来る様が、子供が懸命に逆上がりに挑戦する姿に似ている。

五郎太さん・・・鉄棒をやる季節になりました。別に出句あつた啓蟄の句もいいのですが、切れ字が重なるのが気になりました。

堂哉さん・・・私は情けないことに逆上がりが出来ません。中七が面白いです

百合子さん・・・小さき命も逆上がりする人も同じく尊い！

六点

啓蟄や土を押し出す命かな

忠彦

孤舟選者・・・地中の虫がみな動き、戸を啓いて初めて出て来る力強さ。

百合子さん・・・この生命力に満ちた季節、土のある庭が少なくなりつつあるのが寂しい。

啓子さん・・・地上に出ようとしているときはまだ儚げなのに固い土を押し上げる力・・・生きとし生ける者の神から授かった命ですね。

茶柱でついもうひとつ桜餅

國護

堂哉さん・・・茶柱に では如何でしょうか？

隆さん・・・茶柱が立つのは吉事の兆候。桜餅を食す口実にもなる。

允章さん・・・茶柱の立ったおいしいお茶で桜餅がとまらない。

天牛さん・・・向島のお茶屋でしょうか、「皮を剥いて」食べて下さい、と云はれたのを「川を向いて」と聞き違えた人がいたのです。歳をとるのは困ったものです。その話を思い出してつい笑いました。

百合子さん・・・うふふ、ユーモア溢れる一句。穏やかなお八つの時間が目に浮かびます。

亜也さん・・・口実なんでもよろし。春の気分が大事。

五点

孕猫わがもの顔に法善寺

とみ子

允章さん・・・賑やかな法善寺横丁に住み着いた猫。子が生まれたら更に賑やかになるだろう。

昇さん・・・法善寺横丁は猫の溜まり場。正に我がもの顔。

亜也さん・・・お寺というより飲食店の建て込んだ横丁に行くイメージが浮かぶ。

筍の歯応え嬉し夕餉かな

ただしげ

千恵さん・・・食べ物への食感は大事です。この季節の楽しみです。

天牛さん・・・若い人も感ずるのでしょうか。春は何としても筍を食いたいですね。

寒もどり人も鳥も無口なる

百合子

とみ子さん・・・「無口」が句になるのは面白いと思いました。

四点

今生の帆を全開に春疾風

孤舟

とみ子さん・・・悲壮感を伴ったような新たな旅立ちを 応援したいです。

ただしげさん・・・悲壮感が感じられる。

昇さん・・・今生の帆の措辞は絶妙。人生の応援句。

雲流れ外人墓地の黄水仙

孤舟

天牛さん・・・横浜でしようか。黄水仙でその広々とした雰囲気があります。

この先の筋書き知らず蜥蜴出づ

孤舟

五郎太さん・・・トカゲはミステリアスな存在です。冬の間は冬眠していたのでしょうか？

昇さん・・・この先の蜥蜴の運命は？作者の優しい眼差しを感じます。

亜也さん・・・トラップと同じ。）

白魚の目玉こぼれて四手網

くにお

孤舟選者・・・四手網の中で白魚の数多の眼が蠢く。

啓子さん・・・網の中で跳ねる白魚、見ればこの中にも生死が共にある。じつと見詰める。

うたた寝に心とらぐ春障子

正己

孤舟選者・・・うらかな日差しの中での転寝は至福の刻。

昇さん・・・春障子から洩れる陽光に気持ち良くウトウトと。

盛雄さん・・・うたた寝は健康維持の必須条件とか。

吃音の初音焦らず焦らずに

昇

孤舟選者・・・鶯の轉りが整うまでにはかなりの日時がかかるようだ。

千恵さん・・・優しい気持ちで聞き入っています。

百合子さん・・・焦らずをさらに焦らずにと復唱しているところにクスツと共感しました。

病院のお膳を飾る雛祭

天牛

くにおさん・・・「雛の膳」を使ったらいかがでしょうか。

隆さん・・・殺風景な院内に春が告げられた。

火の散華病を祓ふお水取

盛雄

孤舟選者・・・松明から零れ落ちる火の粉を浴びると、魔除けになるという。

千恵さん・・・あの情景を思い浮かべるとたしかに「火の散華」がぴったりしますね。

三点

硝子戸を震わすアリア春うらら

五郎太

堂哉さん・・・昔、硝子戸を震わすバリトンにびつくりしたことを思い出しました。

天然のシャンデリアかな白木蓮

健介

昇さん・・・夜道を照らす白木蓮を天然のシャンデリアとは言いで妙。

信者らは口伝の祈り島に春

とみ子

五郎太さん・・・今（3月26日）は四旬節、復活祭（今年は4月5日）が待ち遠しい頃です。

のどけしや黄味色の濃きオムレット

千恵

とみ子さん・・・春らしい朝食、美味しそうですね。

昇さん・・・オムレットの黄は春の色。ふつくらして見るからに美味しそう。

菜の花を分けてディーゼル土佐路かな

堂哉

とみ子さん・・・花を分けて走るのでから単線でしょうか。春らしい景に懐かしさを感じます。

ただしげさん・・・春先の四国の牧歌的な風景が目につかぶ。

允章さん・・・満開の菜の花畑の中でディーゼル電車が走る土佐路・・・のどかな景色。

◎うぐいすや逆さになりて蜜を吸う

百合子

孤舟さん・・・確かに宙づりになって花弁を啄ばんでいる。

允章さん・・・うぐいすが夢中になって蜜を吸う様を逆さになりて・・・と表現した。

ミラノ沸く空中戦の春の舞

昇

ただしげさん・ミラノ五輪の競技を優雅に表現している。

春の陽も壽ぐ上梓人集ふ

亜也

五郎太さん・お祝いの句、ありがとうございます。

百合子さん・ほんとうにいい日和の幸せに満ちた光景！

二点

春の宵焼香台の愛妻句

五郎太

堂哉さん・夫婦揃って五七五を楽しんでおられたのでしょうか。何を詠んだ句だったのかな？

象徴へ遠き春かな愛子さま

千恵

龍平さん・果たして 如何なる未来が？ ご多幸をお祈りします

盛雄さん・国民投票で決められないもどかしさ。

船頭の咽の清けし柳かな

堂哉

孤舟選者・福岡・柳川の「どんこ舟」。船頭の巧みな竿さばきと唄。

白梅の蕾つぶらに風温み

國護

正己さん・まだ寒いながらも少し春を感じられる季節感伝わってきます。

春炬燵己の歳を知らされて

正明

孤舟選者・歳を重ねるにつれて益々寒がりになるようだ。

隆さん・年を取ると冷たくなる足。

松明の狂喜乱舞やお水取り

昇

天牛さん・本当に狂喜乱舞ですね。暗やみが益々深くなって行きます。

たぢろぎて裳裾抑へり春颯（はるはやて）

啓子

ただしげさん・風の悪戯を上五で恥じらいよく表現していて面白い。

亜也さん・「裳裾」がチト古風すぎ？も、「たぢろぐ」が醸す含羞の風情に一票。

雛祭り美しき讃岐の和三盆

啓子

五郎太さん・大胆に「美しき」とよんだ作者の郷土愛をいただきました。

山茱萸や満開とても誇らざる

亜也

百合子さん・山茱萸の花って小花が纏まって咲くのに、決して派手ではなく、見れば見るほど美しい。

啓子さん・山茱萸は花が付き満開になる前からその枝ぶりと共に、独特の渋い和の美しさが感

じられます。下五にその渋い美しさが詠われているように思います。

腫瘍切り早や二十年の帰り花

盛雄

隆さん・人も、がんも偶然の産物。偶然の連続の上に、生も死もある。この先もお健やかを

祈念します。

吾を待つ遠き吉野の山桜

盛雄

ただしげさん・上五の表現が良いです。

一点

春憂う中東戦争拡大す

忠彦

龍平さん・もう 2000 年以上続いてきましたか 決着の無い争い 無念！

芽柳は風の依代水の音

孤舟

三恵さん・・・「依代」という言葉に惹かれました。神様(超自然的な存在)が直接人間の前に現れるのではなく、何かしらを通じてその存在を感じ取られる。水の音にさぞや驚かれましたでしょう。

桃の花社交的なるわが娘

五郎太

孤舟選者・・・社交的な娘には明るい未来が待っているのだろう。

春日差池水の苑のさんざめき

五郎太

啓子さん・・・ご出版祝いの会での句でしょう。下五の措辞がこれ以上ないほどにその場の雰囲気

を的確に表現されているようです。

逃水にシエアサイクルの浮かびをり

とみ子

孤舟選者・・・逃水の中を電動自転車の列が行く。

お祝いを二十歳の春や銀座にて

ただしげ

亜也さん・・・昔の映画にありそうな話。ねだってくれることが貴重。

深更のミモザの家を目印に

昇

啓子さん・・・ミモザの明るさを夜の暗さのなかで際立たせて見事と感じました。

春の雪庭木に咲けり雪の花

ゆたか

龍平さん・・・待ち焦がれる春 気をきかせて雪が

春雨や暮なんとす夕焼け空

ゆたか

允章さん・・・真つ赤に燃えた夕焼け空から春雨が降ってきた。

※句会にて・・・「春雨」(春)と「夕焼け空」(夏)の季重なりではありません。

卒業子銘仙以下と昔云ひ

亜也

※中七の意味が分からないとの声から、亜也さんに自解頂きました。

明治の女学生の服装だった袴姿からの連想。学習院長だった乃木さんが服装の華美を戒めて「銘仙以下」と指示したのが、銘仙流行の契機だったとのこと。



【今後の青葉会予定】

☆☆四月青葉会

日 時…四月二十三日(木) 午後一時～

於 …世田谷区施設 三軒茶屋 しやれなあと6階 部屋名…ビーナス

ご出句…句会ご出席予定の方は、5句。ご投句の方は2～3句 を目処にお出しく下さい。

ご提出先は 星田 PC 本会報をPCにて受け取られた方は、送信先星田宛。

或いはFAX 03・3421・9772

ご投句〆切日は、四月十八日(土)

☆☆五月吟行について

来る五月については、例年吟行を催行して参りましたが、諸々検討致しました結果、勝手ながら今回は、従来とは異なる形での「吟行めいた」行事とさせていただきます。勝手ながら、むしろお気楽にご参加いただけますと有難いと存じます。

吟行日時…五月二十八日(木) 午前十一時集合～十二時半

吟行(俳句材料を探す散歩)場所…千代田区 日比谷公園

集合場所…日比谷公園 日比谷通り日比谷交差点に接した出入口(添付書類 地図参照下さい)

★従来と異なる点とご投句・選句から会報配信への流れ

- ① ご参加の方々としては幾分遠くも、東京の中央地域とし、平坦で交通至便な場所とする。
- ② 午前中十時半或いは十一時の集合とする。
- ③ 吟行の目的である俳句の材料を探す「散歩」として、散歩時間は一時間半を限度とし、休む場所（ベンチやカフェなど）の設置が多い場所とする。
- ④ その後の「句会」は行わず、参加者もウェブにて選句いただくことし、帰宅後、ご自宅から当日の作句された俳句を編集担当にお送りいただく。
- ⑤ 会員のみなさまにも、この際ご自宅周辺でも吟行気分の時を創っていただくことを期待し、ご投句へ切はいつもより少し遅めに二十五日（月）とし、吟行の翌々日五月三十日（土）に選句表を発信、選句締め切りを六月八日（月）と致したく。郵送の方への選句表は速達にてご送付申し上げます。

（分かり易いように） 左記 吟行参加者含めたご投句等スケジュールです）

※日比谷公園吟行ご参加のみなさまには、全5句の内、2句程度を吟行の句として下さい。

※ご参加無い方も、是非この時期ご近所の公園などで吟行気分での作句は如何でしょうか。

ご投句・吟行ご参加の方の当季雑詠…五月二十五日（月）締め切り

←

吟行（日比谷公園）ご参加の方の当日の作句…五月二十九日午前中締め切り

←

選句表お届け…五月三十日（土）午前中。 郵送の方は 速達発送します。

←

選句締め切り…六月八日（月）中

←

句会報発行目処…六月十二日（金）

※六月句会のための句ご提出期限は通常に戻し、六月二十日（土）を予定。

- ⑥ 吟行散歩後、参加者の内ご希望者でランチ会を設営する。（事前にご希望を伺います）
- ☆アフターランチ…午後一時くらいからごく近くでランチ2時間を予定致します。

その場で吟行の中での作句あれば頂戴致します。その時間内で出来ない場合はご帰宅後編集担当星田宛お送りください。この締め切りは五月二十九日（金）午前中です。

【青 葉 会 報】

一、この四月より、新たに青葉会運営体制と致しましたのでご報告致します。

長期間に亘り青葉会は今井紀久男氏に世話人をお願いしており、今井氏はそのご人脈を生かすと共に、社内への声掛けなどご尽力をいただき、青葉会運営に大きく寄与してこられました。ここ二年は体調ご不調によりリハビリ病院へのご入院が長引いております。先ごろ已む無く今井氏には本件お伝えし、青葉会運営体制を新たにすることとした次第です。今井氏には、茲許お見舞い申し上げると共に、これまでのご尽力に深く感謝申し上げますと存じます。誠に有難うございました。

青葉会運営に関わる役割は次の通りとしました。今後の青葉会の運営についても考える時期となつてきております。より気持ちの良い青葉会となるよう力を合わせて参ります。何卒よろしくお願い致します。

青葉会代表 久米五郎太 副代表 古田 昇
関西方面世話人 土谷堂哉 総務・編集担当 星田啓子 会計 在間千恵

【訃報】

青葉会句友 高橋康敏氏が本年一月十六日 享年九十二歳にてご逝去されました。

青葉会ご入会 令和四年四月

在籍三年余でしたがすべて投句にての交流でした。句に於いては深い洞察と優しい目、一方選句においては厳しくも心の籠った評をいただき、その存在は有難いかぎりでした。

茲に心から感謝を申し上げると共にご冥福をお祈り申し上げます。

ご入会当初からお身体のご不調から、現有の会員とはお目にかかる機会もありませんでしたが、優れた句を多く残されました。茲に、選者特選にて一位の高得点を獲得された句をいくつかご紹介することで追悼とさせていただきます。 合掌。

堰落つる水の煌めき初燕 令和五年 三月

古書房の梅雨や帳場の時計打つ 五月

葭切や蘆辺にみづく捨小舟 六月

京都永観堂

みかへりの弥陀の御目の涼しさよ 七月

物差に妻の旧姓十三夜 十月

しやがみ込み子猫を囲むランドセル 令和六年 四月

渡月橋渡り切る間を初時雨 十一月

坪庭の梅の一枝に日の座あり 令和七年 二月

伊那谷の晴れて全村柿すだれ 十月

令和七年十二月十八日の青葉会年納めの句会が最後のご投句となりました。第三位の佳句でした。

駅蕎麦にどさと薬味や雪催

【関係者近詠】

（訃報）

渡邊盛雄さんからのお知らせと追悼句

今井紀久男氏と小生の大親友であった神戸の市橋伸彦氏（一九四一年三月生、丸紅二千一年退社）が三月十七日にご逝去。ひと月前に入院中の本人からの電話で二十分かいた話をさせて貰ったときはお元気な声でしたが・・

天命と言えども無情春の雷

盛雄

好漢永の旅立ち鳥雲に

全

お知らせ 関係者近詠 森の座掲載句は 今回はお休みを致します。

令和八年四月十日

（了）